

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑩

加藤嘉明は「賤ヶ岳の七本槍」の一人として知られる豊臣秀吉子飼いの武将で、淡路島に所領を得た後は、水軍の将として各地を

転戦し、1595(文禄4)

1603(慶長8)年に

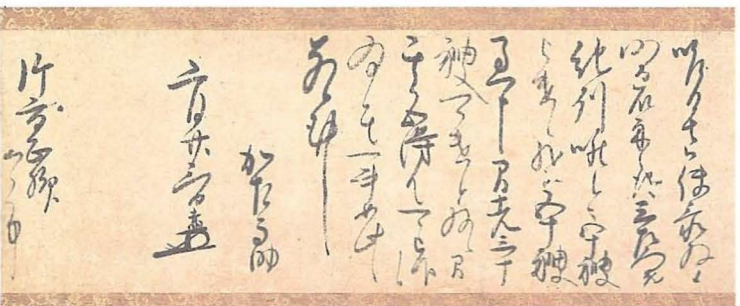
年には伊予松前6万石を拝領した。しかし、秀吉没後

力月後には石材輸送中だった諸大名の船数百艘が大風で破損し、嘉明も46艘が被害を受けたという。本書状に見える30艘の中にも、この海難に遭った船があったかもしれない。嘉明ら諸大名にとって、負担は大きかったことだろう。

宛先の片桐且元も「賤ヶ岳の七本槍」の武将の一人で、当時は豊臣家老として徳川家との仲介に尽力していた。豊臣・徳川が並び立つ時代に、徳川の江戸城普請に動員された、加藤・池田・浅野・片桐たち西国

加藤嘉明の書状

江戸城普請に石船派遣



拠江戸城の普請はその代表といえよう。06年には西国の大名に命じ、3千艘(そう)もの石船を用いて伊豆(静岡県)から江戸へ石垣の石材輸送が開始される。

本書状は、この時の石船派遣に関する一通で、嘉明が片桐且元に宛てたもの。播磨(兵庫県)姫路城主池田輝政と紀伊(和歌山県)和歌山城主浅野幸長が石船を50艘派遣したが、自分に50艘は多いので、まず30艘を派遣したいと伝えている。30艘としたのは、池田52万石余、浅野37万石余に比べ、嘉明20万石という、当時の国力の差に由来するのだから。

その後、嘉明は船を追加派遣しようとしたが、この3カ月5日までで展示中。

加藤嘉明書状(1606)
慶長11年、県歴史文化博物館蔵

その後、嘉明は船を追加派遣しようとしたが、この3

月5日までで展示中。
(専門学芸員・山内治明)
〈随時掲載します〉